

令和7年度第1回ピースツーリズム推進懇談会 会議要旨

1 開催日時

令和7年7月31日（木）14時00分から16時00分

2 会場

広島市役所本庁舎14階第7会議室

3 出席者

懇談会構成員

団 体 名 ・ 役 職	氏 名
被爆体験証言者（平和記念資料館元館長、元国際平和担当理事）	原田 浩【座長】
広島大学平和センター センター長 准教授	ファン デル ドゥース 瑠璃
一般社団法人日本旅行業協会中四国事務局 事務局長	橋村 秀樹
一般社団法人ひろしま通訳・ガイド協会 会長	畝崎 雅子
広島市市民局国際平和推進部 部長	松尾 雄三
広島市経済観光局観光政策部 部長	澄川 宏

（計6名、欠席2名）

事務局

広島市経済観光局観光政策部 観光プロモーション担当課長、課長補佐、主査（計3名）

4 議題

- (1) 令和7年度の取組
- (2) その他平和に関わる本市の事業についての情報共有

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴人の人数

1名

7 会議資料名

資料 ピースツーリズム推進懇談会（令和7年度第1回）

8 発言の要旨

【令和7年度の取組について事務局から説明】

【本市の事業についての情報共有】

(瑠璃委員)

情報発信として、新たに本通り入口の大型ビジョンや広島空港でPR動画を放映されるということで、ぜひ続けていただきたい。

広島・長崎連携観光キャンペーン事業について、長崎の原爆資料館でもポスターを見たが、来館者にもよく見られていた。今までは、広島、長崎それぞれの取組という感だったが、今は二つの都市が一緒に平和を訴えていくイメージが強化されて素晴らしい。研修で留学生を長崎に連れて行った際に、このポスターに非常に興味を示しており、要点が英語で書いてあるとさらに嬉しいと言っていたが、英語版はあるのか。

(事務局)

ポスターの英語版はないが、それに近い形の電子リーフレットを作成しており、そちらは英語版もある。

(瑠璃委員)

ポスターに電子リーフレットの二次元コードをつけてはどうか。

(事務局)

電子リーフレットは、ホームページでも発信したり、平和記念資料館のデジタルサイネージで放映したりしている。長崎でも同様の取組をしてもらっている。

(瑠璃委員)

ホームページをまだ見ていない人、たまたま通りかかってポスターを見かけた人に対しても、日本語・英語の二次元コードが載っていれば、国内外の訪問者にアピールできるので今後のポスター作成の際に、是非ご検討頂きたい。共同で平和を訴えているというイメージが強化され、とても素晴らしい取組だと思った。

次に、モニターツアーの開催について、毎年8月には海外メディアが多く来広するので、来年以降でもそういった海外メディアが参加できるモニターツアーの開催を検討してはどうか。

ガイドツアーのところでバッジの説明があったが、イギリスのブルーバッジなどガイドの習熟度によって観光ガイド資格のバッジを着用する制度がある。広島でもバッジの配布に当たり、ガイドの訓練等も行うのか。使用可能言語や、ピースツーリズムに関する専門内容（特定地域、特定の遺構、被爆樹木など）、知識や経験があるガイドは何色のバッジ等、色や形などで示すのも、訪問者にとってわかりやすく、ガイドの方のやりがいにもつながるかもしれない。

それから、平和記念資料館の「おすすめ入館案内」はインターネット上で見ることはできるのか。また、ホテル等にもこの情報は届いているのか。

(松尾委員)

この資料はインターネットでも見ることができ、市内のホテルにも配布し、周知協力を依頼している。

(畝崎委員)

外国人観光客が広島城から平和公園まで楽しそうに歩く人が増えたというのが、ここ1～2年の特色だと思う。ゲートパークが歩くのに良い道となっている。そこで提案だが、ルートマップとは別に、広島市の一番の推しルートというのをA4サイズ1枚で日本語・英語で作成してはどうか。こちら側が3～5つに絞ってその動線を示せば、人々が付いてくると思う。人々の関心が高い被爆樹木や建物を巡るものとし、例えば、世界平和記念聖堂がどういう風にできたものかというところから始まり、その後4本の被爆樹木がある縮景園、そして隣の県立美術館では夏の間、平山郁夫の代表作をよく出しているの、それを見ていただく。それから、広島城へ歩いて行き、RCCの横にある被爆鳥居と被爆樹木のユーカーリ、そして広島の人々の誇りであり1958年にもう一度復興した広島城をお見せし、ゲートパークから南北の軸線を意識しながら原爆ドームまで歩いて行く道筋で、何があるか、何を見るべきかがわかる資料を作ることを提案する。

現代美術館は、現在1日の平均来館者が少ないので、もう少し来館してもらうための仕組みとして、平和公園からめいぷる〜ぷが1時間に1本程度出ていることを知ってもらう必要がある。また、常設展でイッセイ・ミヤケや草間彌生の作品をハイライトにいつでも見られる様にし、現代美術館、県立美術館、ひろしま美術館を軸に平和を語ると良いのではないかと。

続いて、平和記念資料館は2年前には、入館のためのチケットを購入する際にとっても混雑していたが、WEB予約を導入して解消された。また、開館前後に設定したWEB予約専用時間帯も素晴らしい。ただし、この時間帯の活用が3割に留まっていることは、今後の課題である。以前の平和記念資料館の混雑には、二つの大きな課題があった。このうち、入館のためのチケット購入の問題は大幅に改善された。もう一つの館内の混雑ぶりは残念ながらまだ大きな課題となっている。長蛇の列で、日によって混雑する日とそうでない日の予測がつかない。お盆も混むが、9～11月のインバウンドと修学旅行生が一緒になった時が尋常ではない。ひろしま通訳・ガイド協会としては、本館の見学は30分位で勧めており、平和公園内の碑めぐりに力を入れている。しかし、やはり平和記念資料館の本館に入りたい方が多いので、広島市には本館の1時間当たりの許容人数を超える日数がどれ位あるか把握し、どういう対応ができるか検討してほしい。ガイド協会としても、外国人観光客と修学旅行生との共存について、できることがあれば協力したい。

(橋村委員)

情報発信について、Instagramのフォロワーが増加しているということで、特に若者はWEBサイトよりも情報が伝わりやすいが、最近は年齢層の高い方々もInstagramに移ってきているので、見やすい発信に改善していくことやアンケートを取ってどんな発信がうけるのか調べていくという方法も考えられる。また、多言語でも運用することで日本に来ている外国人観光客にも届くので、より活用できると思う。

フォトコンテストやピースおこの説明があったが、参加者数がそれほど変わらないようであれば、新たな参加者を得るために3～4年に1回内容を見直すなどしてはどうか。モニターツアーは、広島県観光連盟が欧米豪のメディアを対象にファムツアーを実施しているので、参考にしてはどうか。

それから、重ね押しスタンプラリーについて、完成するイラストはハトなど平和に関するものなのかお聞きしたい。

また、平和記念資料館の混雑対策については、日本旅行業協会も広島市から依頼を受け、全会員約数

百社へ東京からメールで配信している。団体は難しいが個人客にはPRできると思うので、他にもできることがあれば協力したい。

(事務局)

資料にあるスタンプラリーの絵はあくまでもイメージで、平和を想起するようなものにしたいと考えている。フォトコンテストやピースおこの参加者数については、それほど増減がない状況で、フォトコンテストは毎年4,000件程度の応募がある。今後も工夫を加えながら、参加数が増えるような取組をしていきたい。

(松尾委員)

広島・長崎連携観光キャンペーンのノベルティ配布場所について、8月から取組開始ということだが、8月上旬は特に混雑するので配慮が必要だと感じた。ガイド用バッジに関して、瑠璃委員の意見にあったガイドのレベルによって色を変えるというご提案は、ガイドのモチベーション向上という面で意義のある取組だと思う。ただ、行政目線でいえば、そういった経験をどう判定していくかや、突き詰めるとガイドの資格につながるので、ガイドとしての活動とどうマッチさせていくかなどの課題があると思う。いずれにせよ、バッジのような形でガイドのモチベーションを向上させる取組を市が支援することがあってもいいと感じた。

畝崎委員からの意見にあった1時間当たりの平和記念資料館本館の許容人数については、私の知る限り設定はしていない。市は、「迎える平和」ということで世界中からの誘客を図っており、1時間当たりの許容人数を決めてそれを超えると一切入館できないとなると、行列のコントロールが非常に難しくなってくる。ただ、入口の混雑がある程度解消されたとしても、中での密度が高くなっている点は我々も認識しており、必要に応じて現地スタッフが連携して入館を待っていただくなどの対応は現在も行っている。また、今年度以降の取組として、東館地下一階にこども向け展示の新設に取り組んでいる。畝崎委員から指摘のあったように、時期によっては修学旅行生と海外観光客のピークが重なり非常に混雑してしまう。こども向け展示があったとしても、本館の展示を見てもらえないということにはならないので、どこまで混雑対策につながるかというのはあるが、こどもに特化して見てもらうべき展示を設けることで、選択肢が増える。あまり時間がない方は、東館を見て完結するようになるので、選択肢を増やすことで副次的に館内の混雑対策にもつながるような取組を今後形にしていきたい。

(原田座長)

補足だが、ガイド向けバッジは前回この懇談会で提案して、事務局に進めてもらっている。どういう恰好で進めていくか模索しているところだ。レベルが分かるようにするとか、そのレベルをどうチェックするのか、経験年数だけでは判断が難しい場合もあるだろうし、そういうところを今から作り上げていきたいと考えているので、まずバッジから検討してもらっている。

平和記念資料館は、入口の混雑対策はできたが3階は混雑しているところが問題だ。修学旅行の教員からは、「背の高い外国人が多く、背の低いこども達は展示が全然見えない」という意見もある。こども向けの展示を作ると、「私達は本館の展示を見ずに帰れということか」と思う人もいるだろう。そこをどう進めていくか。

もう一点、被爆者の立場からすると、どこまで強化していけるのかというところはあるが、現在の展示は弱いと感じている。私の被爆体験というと、8月の炎天下で多くの人が亡くなり、野ざらしになり

腐ったまま、臭い出す。私はこの臭いを未だに決して忘れることができないので、本当は来館者にそういう五感で感じてもらえるような展示にしてほしい。そうした展示を体験していただくことにより、核兵器の被害の本当の悲惨さを知り、だから核兵器を使ってはいけないのだと感じていただけたと思う。

また、「滋くんの弁当箱」を寄贈された折免滋君の母親は、私に「自分の子どもが殺されて、アメリカが憎い」と何度も言っていた。そういうことを考えると、現在の展示はふわっとしたものになっており、そういうトーンをどこまで追求していくかというのはあると思うので、いろいろ苦心はあると思うが、検討に加えていただきたい。

(澄川委員)

今年度から観光政策部長を務めており、平成29年からの議事録を読んだ。これまで様々な意見を頂きながら実現したことや実現できていないことがあるが、一つはこのルートマップができている。我々としては、これをどんどん周知し、活用してもらうことが使命だと思っている。これを市外のホテルやSNSで発信するだけで、皆さんに本当に活用してもらえているのかずっと考えていた。

先程、瑠璃委員が発言されたモニターツアーについて、今年度は日本語で実施することになっているので難しいが、来年度以降、海外メディアの方が来られる機会があれば、そういった方々にも広げたいことを考えていきたい。

また、畝崎委員提案の推しルートの資料については、本日、松尾委員からいただいた「平和記念資料館でこれだけは見てほしい」資料に通ずるものだと思う。時間がある方にはゆっくり見ていただきたいが、時間のない方にとっては、「おすすめルート」のようなものは非常に有効なものだと思うので、今後検討していきたい。

広島市の観光としては、通過型の観光客が多いという課題を抱えている。なかなか滞在時間が伸びず、できれば広島に宿泊し、おいしいものを食べるなどして消費していただくということができていない。早朝や夜のイベントを増やすことで、宿泊が増えると考えている。そういう意味で、平和記念資料館のWEB予約時間帯は、朝と夕方に1,200の枠があるうち、今活用されているのは3割位ということだったので、引き続き協力してPRしていきたい。

橋村委員から情報のあった広島県観光連盟のファミツアーも確認して参考してみたい。

(瑠璃委員)

滞在型の観光客を増やすといえば、平和記念公園から船が出ている世界遺産ルートで夜に宮島に行く、もしくは夜に宮島から帰って泊まるのが非常に良かったという意見が海外の方からあったので、夜遅くまでそういった移動ができるのは良いかもしれない。例えば、とうろう流しは年に1回と決まっているが、あれはどうしても泊まって見たいという人も多い。とうろう流し以外にも夜に見たい広島ならではのイベントが季節ごとにあれば集客につながるのではないかな。ザルツブルクやプラハ、エディンバラなどではご当地ならではのコンサートや映画などを夕方から開催しているので、観光客は宿泊する必要がある。いろいろな催しを見ることができるので、連泊して観光をしたいそうだ。広島には伝統芸能もあり、音楽人がたくさんおられるし、クラシックに限らず様々なジャンルがあるので、例えば港の方で野外コンサートや映画も可能かもしれない。やはり広島なので、その中に被爆や原爆に関するものに特化した企画を入れたい。観光客や市民の誰もが参加できる様に多様なイベントがあると嬉しいと思う。

それから、大阪・関西万博に行った人から、ピースツーリズムを見かけていないと聞いた。日本のパビリオンにルートマップを置くなどは難しいかと思うが、広島に行けばピースツーリズムがあるという

ことを何らかの形で、多言語で情報発信ができればありがたい。

それから、畝崎委員から現代美術館の話があったが、国内外の訪問者から、比治山の緑が美しいと大変好評なので比治山の遊歩道マップがあると良い。また、カフェが現代美術館内に一つしかないことが残念だ。小さな昔ながらの茶屋の様なものでいいので、安価で雰囲気に合う休憩所が他にもあると良い。まんが図書館もあり、さらに親子連れや若い漫画好きな方がご当地的なものの買い物もできるような仕掛けがあれば、比治山・現代美術館を訪れるだけでも一日かかるので、滞在型につながるのではないかな。

原田座長がよく言われる、広島を面として使えるような方法がまだまだありそうだと感じた。

(畝崎委員)

澄川委員の発言でハッとしたが、宿泊していただくには、夜もだがやはり朝が重要だ。魚市場にもっと行ってもらったらどうかとか、縮景園を朝早く開館してもらったらいいのではという意見もあるが、今思えば、昨年2月から朝7時半から8時半までゆったりと平和記念資料館を見られる時間があるということが、まだ上手く伝わっていない。これをもっと外国人にも日本人にも「特別に平和記念資料館をゆったり見学していただける朝の時間帯を用意しました」と、市や県、県観光連盟と一緒に主張すべきだったなと思った。今まで平和記念資料館の朝の開館も、宿泊していただくことも大事だと思っていたが、ここを結びつける発想がなかったので、とてもいいことを聞いたと感じている。やはり、朝の平和記念資料館の時間帯について、もっとPRしていかなければと思った。

【その他意見交換】

(原田座長)

この懇談会は平成29年度からやってきて、皆さんからいろいろな格好で意見をいただいているが、守備範囲が広いので、対応が難しい部分があることが悩ましいところだ。観光政策としてすべて解決できるものではないし、広島の行政を引っ張っていくのはやはり平和なので、平和推進でしっかりサポートしていただきたい。広島は国際平和文化都市であり、被爆体験という非常に悲惨な体験をしたことのメッセージ性は極めて大きいので、牽引していただければと思っている。

そうした中で私が思うのは、広島駅は綺麗になったが、平和行政からの視点が十分でないような気がしている。電車のホームの上の大きな屋根は羽根を広げたツルをイメージしたと担当は言っているようだが、ツルが広島の平和のシンボルとして浸透しているかという点とそうでもない。広島駅は、明治時代に山陽鉄道の駅として開業し、その後、軍都となった広島には宇品線が走り、原爆により広島駅も倒壊したが、そんな中から市民のたくましい力により復興した、そういう歴史が広島にあるということを広島駅に降り立った人に感じてもらえるようなものにしてもらいたいと思っている。

それから、今一番悩ましいのは被服支廠の問題だ。私は保存活動をしてきたが、4棟で400mある膨大な建物をどう活用していくか。県議会でも議論されているが、あまり前進はしていない。一方で、平和記念資料館は許容限界を超えてしまっている。建物を改築することはできないので、被服支廠をできるだけ活用しながら対応する方法を、県と協議しながら前向きに進めてほしい。県でも、県民からそのあり方についての意見を聞いているようで、若者からは横浜の赤レンガ倉庫や函館の金森倉庫、小樽運河沿いの倉庫などをイメージして、あの中にレストランやホテルを作るという意見が出ているなど、議論は今も行われているようなので、しっかりと広島の想いや歴史を伝える一つの要としてほしい。

被服支廠を活用していくためには、ルートや交通手段をどうするかということも課題だ。例えば、昔、この懇談会でめいぷる〜ぷについて中国JRバスに話をしたという経緯もあるが、バス路線の新造など

が必要であれば、バス会社に働きかけて徐々に仕掛けを作っていかなければいけないと思っている。

(松尾委員)

原田座長のおっしゃるとおり、平和行政は広島を基軸になる。迎える平和を推進する上で、平和と観光の担当部署が連携して、世界中から人々を受け入れておもてなしをしていくことは欠かせない部分だと思っている。そうした認識で、これまでも様々な連携や事業を進めてきたが、さらにそれを進化させていくべきだという意見だと受け止めた。

個別の具体論についても、いろいろと提案いただいたので可能な範囲でコメントしたい。

まず、広島駅はツルをイメージしたモニュメントのみでは不足しているのではないかと、ということについて、具体的にモニュメントをどういう風にしていくかこの場で申し上げるのは難しいが、今、広島駅周辺はいろいろ変わってきており、駅前のエールエールには中央図書館が移転し、郷土資料館のサテライトや映像文化ライブラリーもできることになるので、広島駅を使って来られた方の情報発信の一つの拠点になってくる。そういったところの展示などを通じて、広島ならではの特色を出していくことは考えられると思う。

被服支廠については、1号棟は広島市が譲り受けることが決まっている。1号棟から3号棟、そして国が持つ4号棟も含めて、どういう風に活用されるかは、これからも様々な意見をいただきながら検討していくことになる。市と県の関係者が集まる検討懇談会での将来的な活用イメージとしては、市が所有することになる1号棟は平和学習などで活用し、引き続き県が所有する2、3号棟は地域住民の日常的な活用や宿泊や観光拠点としての活用などが挙げられている。これについては、また様々な意見を頂きながら考えていくことになるが、我々も1号棟の所有者になる身として、この被服支廠の活用はしっかり考えていきたいと思っている。

(橋村委員)

すごく難しいところだが、被服支廠は残した方が良いと思うし、世界的にも今そうした建物が耐震構造の問題などで無くなっていつている。子どもたちに伝える時、言葉で話すのと、実際に実物を見てもらうのとでは全然インパクトが違う部分がある。ただ、やはりそこにお客様に行ってもらわなければならない中で、広島市が所有する部分については、中を資料館の様な形で残す。それ以外の部分については、外側は残して、市民が活用できるあるいは海外を含めた一般の観光客が行きやすいものを、何らかの形で活用できたらいいと思う。すべて崩してしまうと、もうこの世の中から消えてしまうことになるので、活かすのであればSDGsの考え方、要するに継続して活かしていくために現代やこれから生まれる人達にとってもそこに行きやすいような環境を、その中に入れていく必要があると思う。

(畠崎委員)

広島城が3月末で閉城するが、ピースツーリズムにとっても戦後復興の象徴としても広島城は重要な存在だ。耐震の問題で中に入れなくなるのは仕方がないが、外観が見えることが大事なので、なるべく早めに広島市からあの建物がどうなるかについて発表してほしい。入れなくなった後にどうなるのか、まだ情報が出ていないように思うので、知人の中でも「あれはもう壊すのが決まった」という人もいれば「そんなことはないと思う」という人もおり、情報が混乱している状況だ。また、三の丸に歴史館ができると聞いているが、いつオープンするのか、閉城後、歴史館が開設するまでの間、まったく歴史展示がない期間がどの位あるのかなど、今、広島城は外国人にもとても人気なので早めに情報を発表して

ほしい。

(瑠璃委員)

広島城に関していえば、中国軍管区司令部跡が今もう天井が崩れそうな状況だが、重要な被爆の記憶がなくなってしまうように、なんとかできないかと願っている。保存はできそうなのか。

(事務局)

現在は緑政課から変わり、文化振興課広島城活性化担当の所管になった。保存について、具体的なことは聞いていない。

(原田座長)

中国軍管区司令部跡については、当時の緑政課となんとかできないか議論したが、財産そのものが緑政課のものではないので困っていた。結果的に、あそこを触ると崩れてしまうのではないかとということで、崩れないような格好でどうしていくか、というところでストップしていた。今、事務局から説明のあったように、文化振興課広島城活性化担当で所管することになったので、一歩前進していくのではないかと期待感を持っている。

もう一つは広島大学旧理学部1号館の跡地に、あと数年で広島大学の平和センターや広島市立大学の広島平和研究所も移るが、その1階に展示室や市民向けの場所を設けるに当たり、ピースツーリズムのコンテンツを入れていけたらと思うが、それはいかがか。広島大学旧理学部1号館に、ピースツーリズムの展示はされるのか。

(松尾委員)

旧理学部1号館の建物の活用については、今その活用計画の中で、1階に展示スペースなどを設けていくという方向性になっている。企画総務局の行政経営課が所管しており、被爆関係の展示などはされると聞いている。もちろん被爆建物として一部は保存していくということなので、そういった特徴を生かす方向性になるのではないかと考えている。

(原田座長)

なかなかどういう格好で進めていこうとしているのか、具体的な形が見えてこない。このピースツーリズムの初期の段階でも、各施設を自転車で見て回ったが、その時からずっと課題になっている。

それから、もう一つ皆さんに相談したいのは、この懇談会を今後どう進めていくのがいいかということだ。前回もそういう議論はしたが、十分な議論ができていなかった。少なくとも来年度以降どうしていくか。それから、委員のメンバーをどうするか。今、何人か欠員になっているが、そこをあえて補強しないでやってきたという経緯もある。だからそこも含めて、次の段階を考えていかなければいけないと思うが、この懇談会を今後どうしていくべきか意見がある方はいるか。

(橋村委員)

以前から言われていたと思うが、委員に若い方を入れるべきだと思う。今後、ピースツーリズムは何年も続いていくし、我々が現役引退という形も考えられる。やはり若い方の意見は我々と違うと思うので、ぜひ参考にしていきたい。今、学生でもいろいろ平和活動に取り組んでいる方もいるので、そうし

た方を呼んで一緒に話すのもいいのではないか。

(原田座長)

以前に委員だった平尾さんが退任する時に、「自分より若い人を入れるべき」と言っていた。そういうこともあって、平尾さんの後任も入れてないし、被団協の前田さんのところも欠員のままにしているので、どうするか考える必要がある。

この懇談会を開催することについては、少なくとも年に1～2回開催することは、大きな意義があると思う。

(澄川委員)

若い方は私達とは全然違うことを考えていると思うので、若い人の意見を聞くことは賛成だ。ぜひ、意見を聞いて、ピースツーリズムやいろんな施策にも反映していきたいと思う。開催回数やどういう風に進めるのかといったところは、座長とも相談し、検討させていただきたい。

(原田座長)

それからもう一つ、この懇談会の課題として残っているのが、やはり拠点施設の問題だ。これは最初の段階で、この懇談会から市に提言をして、平和と文化を融合していく広い意味での平和を進めていくべきではないかということも提言した。これも具体的には十分ではないが、前に進めてきたことになるのではないかという気もしている。

そろそろ時間が来たので、他に意見がなければ終了したいと思うが、今日はいろいろな意見を頂きありがとうございました。

(事務局)

今回頂いた皆様からの貴重な意見については、今後の事業推進に当たり参考とさせていただきたい。